

健康志向高まるシンガポールで、広島大学が 機能性食品セミナー開催

碓 知子

＜健康志向でサプリメント需要が増加＞

日本以上のスピードで高齢化が進むシンガポール。2030年の人口は634万人と予想されていますが、そのうち65歳以上が28%の180万人、15歳未満は80万6000人。2050年には予想人口658万人のうち308万、即ち人口の約半分47%が65歳以上となる予想されています。

こうした中、長く健康でいるため、健康志向の高い消費者が増加しています。とはいえ、健康な食事をするように心がける人もいますが、多いのはサプリメント依存派。仕事が忙しくて、自宅で健康な食事を作ることができない人が多く、朝、昼、晩全てが外食。しかも炭水化物が多い屋台、という人も少なくありません。スポーツ人口も増えてはいますが、定期的な運動をする時間がないという人は大勢います。

そのため、手取り早く不足した栄養素をとるため、サプリメントを摂取する人が増えているのです。ユーロモニター社の調査によると2017年のサプリメント市場規模は3億7,440万米ドルと、2012年より3,000万米ドル増加しました。ある薬局チェーンによると、人気のサプリメントはプロバイオティクス商品や、心臓、脳によいとされる魚油、コレステロール値を下げるとされる補酵素のコエンザイムQ10など。また、別の薬局チェーンによると、働く成人には免疫を強める、あるいは活力を増すサプリ、高齢者はひざ関節によいとされるグルコサミンを購入するケースが多く、子供を持つ家庭では、脳や免疫系を強めるサプリメントが人気だと言います。

＜広島大学、機能性食品セミナーを開催＞

このように機能性食品市場の拡大が見込めるシンガポールで、11月12日、広島大学がセミナーを開催しました。健康寿命を延ばしたいのは日本も同じ。広島大学でも様々な研究が行われており、その一部が紹介されました。

ひろしま産業振興機構・国際副委員長でもある広島大学産学・地域連携センターの平見尚隆特任教授による開会挨拶からはじまり、二川浩樹教授が虫歯菌・歯周病菌・カンジダ菌を抑制する『L8020菌』について講演。L8020はオーラルケアのタブレットとして日本やスイスの会社が商品化しています。



(セミナーの様子)

乳酸菌の保健機能性を研究している野田正文特任准教授は、植物由来乳酸菌を使った病気の罹患や発症予防について紹介しました。

シンガポールのスピーカーからも講演がありました。テマセク・ポリテクニクのカパラナ・バスカラン教授が「機能性食品業界の商品コンセプトと商品化」について講演。同教授によると、慢性疾患の95%は食生活に起因しているそうです。また、消費者は機能性食品のメーカーに透明性を求めていること、消費者の75%が商品表示を信じていない、消費者の35%は、食品表示の記載されていることが理解できていないことなどを説明。テマセク・ポリテクニクでは商品のイノベーションを支援していますが、商品化のプロセスについても説明がありました。南洋工科大学の人工酵素・天然素材センター(SYNC)のジェームズ・タム教授は、薬草植物を用いた薬草からの経口活性ペプチドの創薬、合成と研究の現状などを紹介しました。

共に高齢化に直面するシンガポールと日本。機能性食品やその他、研究開発、商品化などでコラボレーションできる分野も多いのではないかと思います。



(広島大学二川教授によるL8020菌についての講演)